

第2章 島本町の生涯学習の現状と課題

第1節 住民対象の「生涯学習に関するアンケート調査」の結果から

1. 調査の方法と調査対象者の属性

平成17年10月に20歳以上の住民1,000人を対象に、生涯学習推進計画の策定に向けての資料を得ることを目的として「生涯学習に関するアンケート調査」を実施しました。調査対象は住民基本台帳をもとに、性別・年齢層別の同数割り当てによる無作為抽出にて決定されました。回収数は484でしたが、無回答が3分の2以上であった1通を無効とした結果、有効回収数483、有効回収率は48.3%という結果となりました。

表2-1は、性別と年齢双方ともに回答をした478名を島本町の20歳以上の人口全体と性・年齢層別に比較したものです。調査対象者は実際の島本町の人口構成と比べ、60代が比較的多く、逆に20代及び30代男性が少ないという傾向はあるものの、総じて地域の代表性は確保されているものといえます。

表2-1. 回答者と島本町全体の特性の比較（性別・年齢層別構成）

単位：%(人)

	性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
調査回答者	男性	4.4	6.3	5.4	10.0	12.3	7.1	45.6(218)
	女性	5.6	9.2	9.2	10.7	12.1	7.5	54.4(260)
	計	10.0	15.5	14.6	20.7	24.4	14.6	100(478)
島本町全体	男性	7.8	9.1	7.5	9.8	7.7	5.7	47.6(11,198)
	女性	7.6	9.4	8.0	10.6	8.0	8.7	52.4(12,315)
	計	15.4	18.5	15.5	20.4	15.7	14.4	100(23,513)

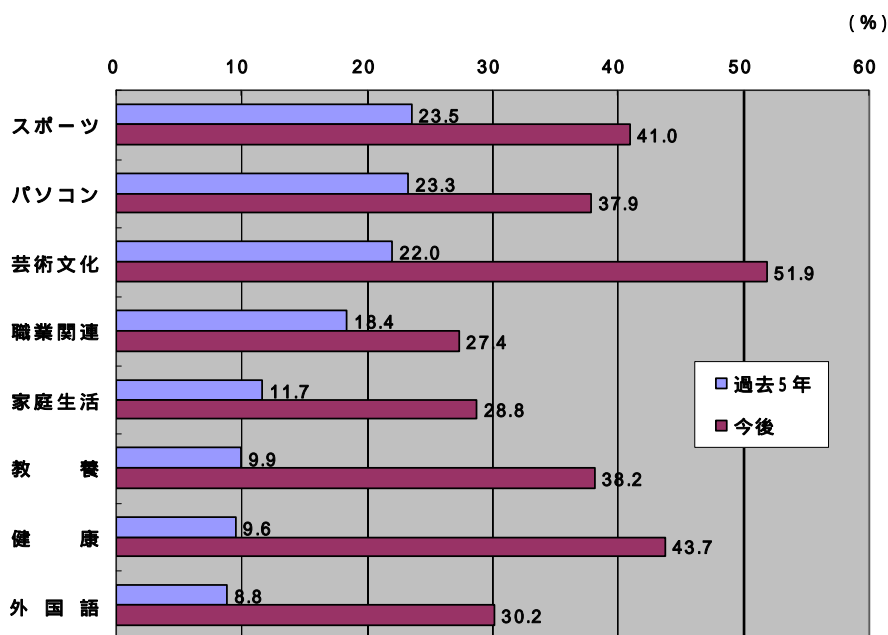
2. 学習内容

図2-1は、過去5年間の学習内容と今後希望する学習内容を示したものです。過去5年間では「運動・スポーツ」「パソコン・インターネットに関すること」「芸術文化的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が比較的多くなっており、2割を超えています。続いて「工作上必要な知識・技能の習得および資格の取得」、「家庭生活に役立つ知識・技能の習得（料理、子育てなど）」などとなっています。一方、今後の学習希望分野では、「芸術文化的なもの」が過半数を超えて最も多く、「健康に関わること」「運動・スポーツ」「教養的なもの（文学、歴史、科学など）」「パソコン・インターネットに関すること」「英会

話などの外国語」などが続いています。過去5年間の学習歴と今後の希望を単純に比べてみると、かなり今後の希望の方が多く、実際の需要の強さはこの問いからは定かではありませんが、満たされていない学習ニーズが多く存在することがわかります。

図2 - 1 . 過去5年間と今後希望する生涯学習の内容

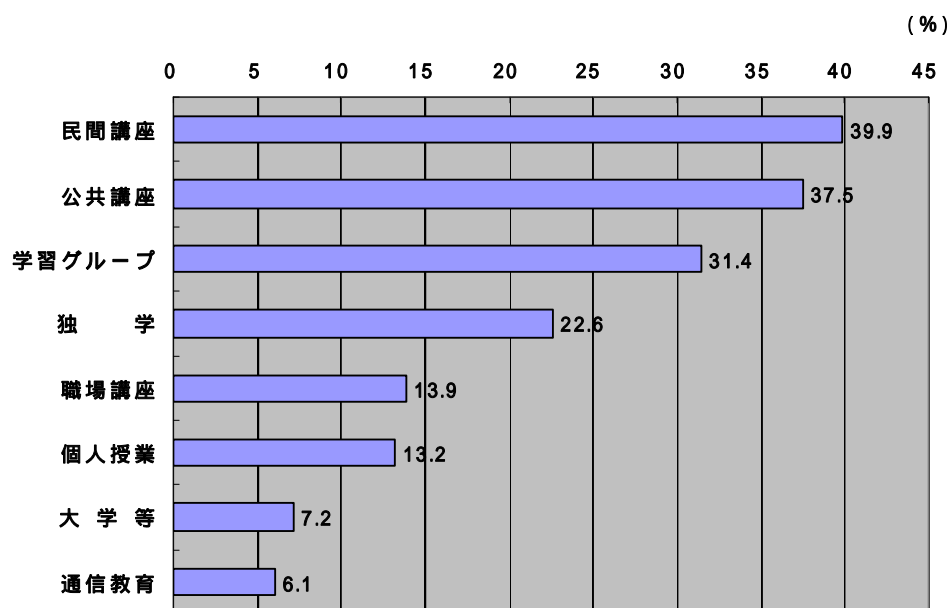
(回答者数: 上段 478 人、下段 298 人)



3 . 学習方法および学習の場

図2 - 2 は生涯学習をどのような方法・場で行っているかを尋ねたものです。それによると、最も多かったのが、「民間の教育施設の講座・教室を受講して」で約4割、続いて「公共施設の講座・教室を受講して」が37.5%、「同好者が自主的に集まっているサークル、グループで」が31.4%、などとなっています。このことから、生涯学習は公共的な学習の場ばかりでなく、民間教育事業者をはじめとして、大学等の場でも多く行われており、生涯学習の推進を考えるうえで、そのような外部機関の存在は無視できないことがわかります。

図2 - 2 . 過去5年間の生涯学習の方法・場（回答者数：298人）



4 . 生涯学習歴からみた回答者の分類

過去5年間と現在の生涯学習歴および今後の生涯学習希望の3項目全てに回答した448人を分類したのが表2 - 2です。それによると、過去5年間に生涯学習経験があり、現在も学習活動に参加し、今後も生涯学習したいグループ(継続層)が最も多く、4割近くを占めています。続いて現在も含めて過去5年間、生涯学習を行っておらず、今後も行うつもりのないグループ(無関心層)現在も含めて過去5年間では生涯学習を行っていないが、今後はしたいグループ(新規需要層)が2割弱で続いています。そして過去5年間では生涯学習経験があり、現在は中断しているが、今後は復帰したいと考えているグループ(復帰層)が17%と4番目に多くなっています。その一方で、これまで生涯学習経験があった者で、今後は学習したいとは思わない人々は少なく、合わせて5.8%にすぎません。この結果は他の地域で行われた先行調査と同様の傾向を示しています。

表2 - 3は表2 - 2の6グループのうち、多かった4グループ(継続層、復帰層、新規需要層、無関心層)を性・年齢層別で見たものです。これによると、復帰層は女性に比較的多い一方、新規需要層と無関心層は男性に多くなってい

ます。年齢層を加味してみると、継続層では50～60代の女性、復帰層では30～40代の女性、新規需要層では50代の男性、無関心層では70代以上が比較的多くみられます。

表2-2 . 過去5年間の生涯学習歴と今後の生涯学習希望に基づく回答者の分類(全体448人) 単位:(%)

過去5年間	現在	今後	比率
参加	参加	参加希望	38.4
		不参加希望	2.7
	不参加	参加希望	17.2
		不参加希望	3.1
不参加	不参加	参加希望	19.0
		不参加希望	19.6

表2-3 : 性別、年齢層別の学習タイプ分類 単位:%(人)

性別	タイプ	年齢層						計
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
男	継続層	42.1	42.9	33.3	41.9	41.2	31.3	39.2(76)
	復帰層	15.8	28.6	23.8	4.7	11.8	6.3	13.4(26)
	新規需要層	26.3	21.4	14.3	37.2	19.6	18.8	23.7(46)
	無関心層	15.8	7.1	28.6	16.3	27.5	43.8	23.7(46)
	計	100(19)	100(28)	100(21)	100(43)	100(51)	100(32)	100(194)
女	継続層	32.0	34.1	30.0	56.8	52.0	38.5	42.3(96)
	復帰層	24.0	31.7	35.0	18.2	10.0	19.2	22.5(51)
	新規需要層	24.0	22.0	25.0	13.6	14.0	3.8	17.2(39)
	無関心層	20.0	12.2	10.0	11.4	24.0	38.5	18.1(41)
	計	100(25)	100(41)	100(40)	100(44)	100(50)	100(27)	100(227)

表2-4は職業別にみたものですが、フルタイム就労者では新規需要層、専業主婦(夫)では復帰層、無職では無関心層が比較的多くなっています。また家族構成に関しては、復帰層の約3人に1人(32.8%)が小学校入学前の子どがいるとしており、全体の15.1%と比べ、著しく多くなっています。これらのことからして、復帰層には30～40代で「専業主婦(夫)」をしている女性、新規需要層には定年を間近に控えた50代の有職男性、無関心層には70歳以上の無職が比較的多く含まれていると考えられます。

表2 - 4 生涯学習歴グループの職業別構成

単位: %(人)

	フルタイム 就労者	パート・ アルバイト	専業主婦 (夫)	無 職	その他	計
継続層	38.4	13.4	19.8	20.3	8.1	100(172)
復帰層	33.8	18.2	26.0	18.2	3.9	100(77)
新規需要層	44.7	12.9	20.0	18.8	3.5	100(85)
無関心層	26.1	17.0	17.0	33.0	6.8	100(88)
計	36.2	14.9	20.4	22.3	6.2	100(422)

(注) 太文字は平均より5%以上高い数値を示しているもの。

図2 - 3から図2 - 6は4グループに「学習を好きか嫌いか」「学習は楽しいか辛い」「学習は価値があるかないか」「学習は得意か苦手か」といった学習観を尋ねた問いの結果を示したものです。図2 - 3では「非常に好き」「多少好き」を合わせた学習への好感度は継続層で8割弱、復帰層で7割弱、新規需要層で62.7%と生涯学習への浸透度が下がるにつれ、やや低下していますが、無関心層では際立って低く、17.4%しかいません。この傾向は他の学習観に関する問いでも見られ、「学習は楽しいか辛い」を問うた問いでは(図2 - 4)「楽しい」と応えた人は継続層で74%、復帰層、新規需要層では6割程度、無関心層では19%となっています。学習の価値を尋ねた問いでも(図2 - 5)継続層では「価値がある」と回答した人は9割近くに達し、続いて復帰層が85.3%、新規需要層が77.4%となっていますが、無関心層では3割強(31.6%)に止まっています。「学習が得意か苦手か」に関する問いでも(図2 - 6)「得意」と思っている人は継続層で46.2%、復帰層で36.9%、新規需要層で32.4%、無関心層で11.9%と同様の傾向を示していますが、ただこの問いに関しては、「非常に得意」と思っている人は継続層のみ23.4%と突出しています。

これらの結果から、継続層は学習に対して肯定的な態度を持ち、自分の学習能力にも比較的自信を持った人から構成させているグループと言えます。復帰層、新規需要層は肯定的な回答をした人の比率は継続層と比べ低くなっていますが、「学習を好きか嫌いか」「学習は楽しいか辛い」「学習は価値があるかないか」の3つの問いにおいて、「そう思う」と回答をした人はいずれも6割を超えており、学習への態度という点では十分に肯定的なグループと言えるでしょう。ただし、学習を非常に得意と感じる人は継続層と比べ、著しく少なく、学習への自信という点では、それほど強くはありません。無関心層に関しては、学習を楽しみ、あるいは好きと思う人が際だって少なく、価値を感じている人

も3分の1にも達しておらず、また学習を得意と応えた人も1割程度に止まっています。このことから、このグループが生涯学習に取り組むようになるためには、様々な視点から粘り強くアプローチすることが求められます。

図2 - 3 . 生涯学習歴グループ別、学習を好きと感じる人の比率

(回答者数：385人)

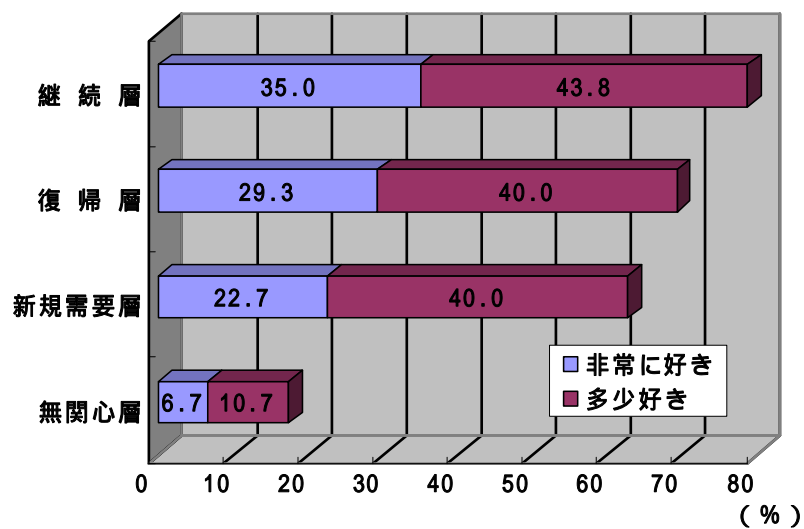


図 2 - 4 . 生涯学習歴グループ別、学習を楽しんでいる人の比率
 (回答者数：388人)

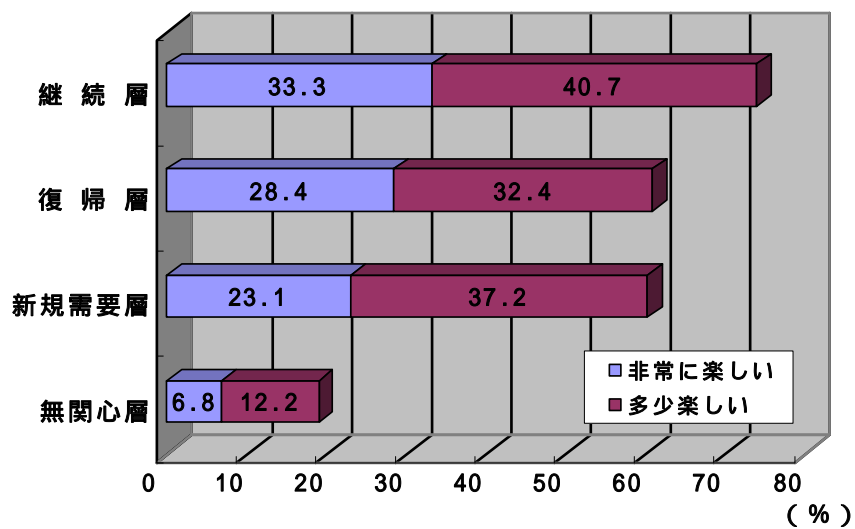


図 2 - 5 . 生涯学習歴グループ別、学習を価値あるものとする人の比率
 (回答者数：385人)

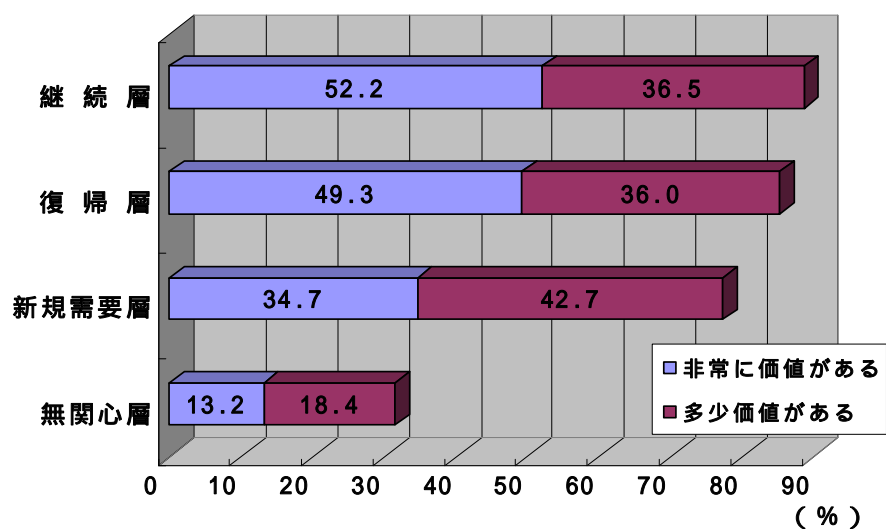
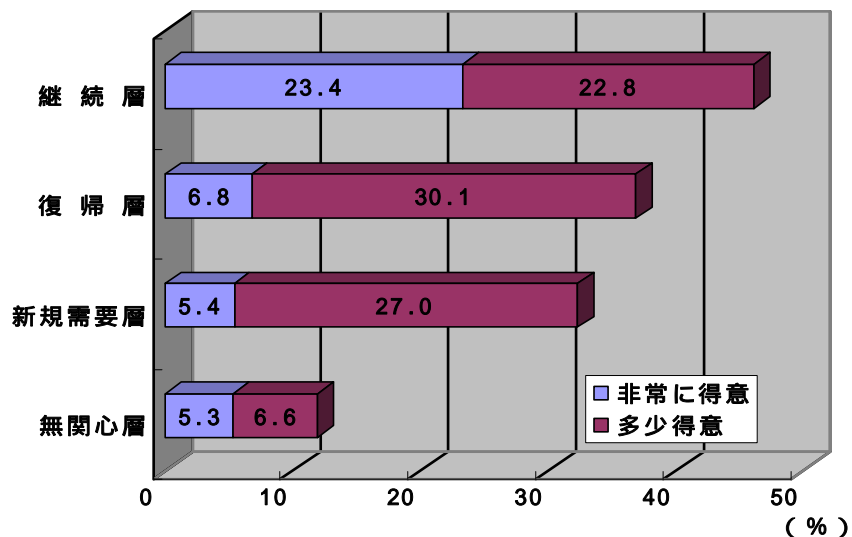


図2 - 6 . 生涯学習歴グループ別、学習を得意と思う人の比率

(回答者数：381人)

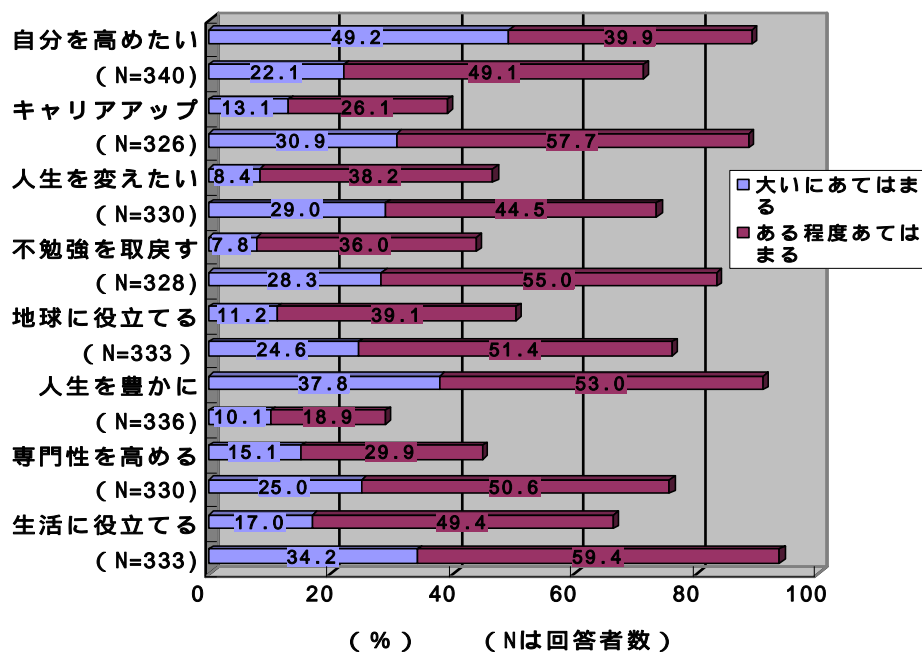


5 . 生涯学習をしたい理由

図2 - 7は今後、生涯学習をしてみたいと答えた3グループ(継続層、復帰層、新規需要層)に対して、その理由を尋ねた結果です。理由として最も多く選択された項目は「関心のあることを深めたいから」で、「大いにあてはまる」34.2%、「ある程度あてはまる」59.4%を合わせて93.6%と大多数の回答者が選んでいます。また「自分を高めたいから」は「大いにあてはまる」では49.2%と最多となっており、「ある程度あてはまる」を合わせて約9割に達しています。その他にも「人生を豊かにしたいから」や「学習すること自体が楽しいから」も「大いにあてはまる」「ある程度あてはまる」合わせて約9割となっており、向学心や向上心と関連する項目で特に比率が高くなっています。

その一方で、「キャリアアップや就職に役立てたいから」「社会や地域のために学んだことを役立てたいから」「日常生活に学んだことを役立てたいから」といった実用的な目的は比較的少なくなっています。

図2 - 7 . 生涯学習をしたい理由



この生涯学習を試みたい理由は3グループ間で差異がみられました。表2 - 5は特に大きな差異がみられた項目を挙げたものですが、その差異は主として復帰層においてみられ、「キャリアアップや就職に役立てたいから」「自分の人生を変えたいから」「資格あるいは学位を取得したいから」といった項目で復帰層が多くなっています。復帰層には小学校入学前の子どもを抱える30~40代の女性が多いことから、彼女たちの中に子育てが一段落したら、仕事につきたい、そのための勉強をしたいと考える人がいると推測されます。また「健康・体力のため」では新規需要層が比較的少なくなっています。

これらの他にも「学習すること自体が楽しいから」の項目において、「大いにあてはまる」と答えた人は継続層で37%と、復帰層の20.8%、新規需要層の27.5%と比べ、多くなっており、先に示した学習観上の差異がここでも裏づけられる結果となりました。

表2 - 5 .生涯学習歴グループ別、生涯学習をしたい理由の差異 単位:(%)

	継続層	復帰層	新規需要層	計
キャリアアップや就職	36.3	50.7	35.0	39.2
人生を変えたい	39.6	60.0	41.3	44.6
健康	78.7	74.5	61.7	73.5
資格・学位を取得	22.8	40.6	31.3	29.0

(注) 太文字は平均よりも10%以上高い数値。